

平成29年度 西新井小学校 校内研究のまとめ

平成30年3月7日(水)

足立区立西新井小学校 研究部

1 平成29年度研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現 ～ICTの良さを生かした指導の工夫～

2 研究主題について

(1) 平成29年度の研究・実践について

本校の研究は、昨年度に引き続き、「授業におけるICT活用」「外国語活動の充実」「防災巻を活用した防災教育」「第五中学校との小中連携」の4つのテーマを、ほぼ同時並行的に進めてきた。

「授業におけるICT活用」については、平成27年度から始まった、東京都公立小学校ICT整備支援事業が今年度7月に終了し、9月からは足立区のICT機器の先行整備が実施された。環境整備に時間を要し、機器が整わない「空白期間」が一時あったものの、現在では東京都支援事業の時とほぼ同等に環境が整った。今年度は、研究授業が6回実施できた。

- 3年体育…動画遅延再生ソフトによる器械運動のコツ提示→児童に内容を理解させる、対話的活動のツール
- 2年国語…相手の説明を聞いて、絵をタブレットに描く活動→対話的活動のツール
- 6年外活…リスニングや題材を確認するための提示装置→児童に内容を理解させるツール
- 1年算数…フラッシュ暗算、児童の考えの撮影提示、学習の流れを提示→知識技能の定着ツール
- 4年国語…絵本ページを画像として保存活用→児童の主体的活動を支えるツール
- 5年理科…パワーポイントのページ並べ替えを活用→論理的思考を整理するためのツール、プログラミング

このように、それぞれの研究授業において、今年度の研究主題を意識したICT活用の新たな手立てが示され、協議会ではその有効性が吟味された。ただ、より児童の主体性を喚起する題材設定や発問、学習活動の工夫や、より豊かな言語活動を育てていくための工夫という点においては課題があった。若手教員の指導力向上の必要性もあり、研究と同時に研修を通して進めていくことが望まれる。

「防災巻を活用した防災教育」「外国語活動の充実」については、全校で共通して取り組む流れが整ってきた。来年度は校内研修会をより充実させるとともに、児童に目的意識をもたせる課題(防災であればマップ作り、外国語であれば外部連携、オリパラ連携等)を設定して取り組むなど、学年の実態に応じて発展させることができると考えている。

「第五中学校との小中連携」は、小中学校全教員が参加する研究授業・協議会の型に移行してから3年目となった。「帯時間」「ノート指導」「ICT・視聴覚」「言語活動」の4本柱の上に立ち、小中学校の教員が協力して指導方法を研究した。「帯時間」「言語活動」においては、小中学校それぞれで新たな指導方法が試され、研究が深まりつつある。小中学校間の教員の意思疎通も以前よりスムーズになってきたので、来年度はより小中の接続を意識した内容に深めていくことが望まれる。

(2) 平成29年度研究推進計画に向けた課題

平成30年度の研究計画立案に当たって、校内からいくつかの課題点が挙げられた。

- 分科会組織が複雑で、指導案検討が効率的ではない→学年組織を基本としたい
- 小中連携研究授業の指導案検討の予定が立てにくい
- ICT機器のより効率的な運用、使いやすさをさらに高めてほしい

以上の課題点を踏まえて、来年度の研究計画を策定し、より充実した研究活動を展開していきたい。